

台湾イベント火災で医療支援 「感染症対応が課題」

川崎医科大学医師ら会見

台湾・新北市で6月がやけどを負った火災
下旬、イベントで噴射で、医療支援などに当
されたカラーパウダー たった県内の医師3人
に引火し、約500人が18日、倉敷市松島の

川崎医科大で会見し、
活動を報告した。

3人は、同大付属病
院救急科の氏家良人教
授(日本集
中治療医学
会理事長)



現地での活動について報告する
山田医師(右)ら

と山田祥子
医師、国際
医療ボラン
ティアAM
DA(本部
・岡山市北
区伊福町)
の菅波茂代
表。
台湾政府
から要請を
受けた日本医師会とA
MDAの共同プロジェ
クトで、先遣隊の氏家
教授と菅波代表は今月
2、3日に赴き、ニー
ズを調査。山田医師は
12、15日、多くの患者
が入院する台北市で治
療方針のアドバイスを
を行った。
負傷者は52病院に収
容され、半数は現在も
集中治療を受けている
といい、山田医師は「重
篤な患者が多く、皮膚
移植を行う医師が不足

している」と説明。「今
後は感染症への対応や
精神的ケア、痛みのコ
ントロールなどが課題
だ」と指摘した。
日本、台湾の両医師
会が近く、災害時の医
師派遣などに関する
協定を結ぶことも報
告。氏家教授は「要請
があればすぐに医師を
派遣したい」、菅波代
表は「今後も連携して
国際医療に貢献した
い」と述べた。
(伊丹友香)